

Title	東欧における体制転換の 20 年を振り返る：チェコ共和国を事例として (共同研究報告：グローバリゼーション研究)
Author(s)	小野澤, 信一
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.19-2 : 19-20
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2301
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

研究会が14名の参加者の下に開催された。北海道大学より林忠行教授をお迎えして上記のテーマについての発表が行われた。概要は以下の通りである。

林教授によると、1989年からの体制変動による東欧諸国の共産党支配体制崩壊から20年がたった現在において、チェコ共和国の政治を事例として他の東中欧諸国と比較しながら過去20年間の体制転換を振り返り、整理することが本研究の目的である。

はじめに、東欧諸国の政治制度に関して、大統領制、議会民主制、選挙制度などの確認、そしてその現在と過去の違いを振り返った。

次に、東中欧諸国（ハンガリー、ポーランド、チェコ、スロヴァキア）における政党システムの比較を行い、ハンガリーとその他3国の政党システムの違いを以下のように指摘した。ハンガリーでは1990年の最初の自由選挙から並立制が採られ、議会では二大政党の傾向が強いが、比例部分もあるのでそれ以外の政党も一定の議席は確保している。これに対し他の3国は、体制変動の過程でできた連合組織が分裂し、小党分立傾向が強まり、その後4～7政党の穏健な多党制に落ち着いた。しかし、スロヴァキアを除いた2国では一定の範囲内で二大政党化傾向が見られる。

さらに、チェコの政党システムを、現在の議会

【グローバル化研究】
東欧における体制転換の20年を振り返る
—チェコ共和国を事例として—

2009年6月5日、聖学院本部新館2階において、本年度第2回「グローバル化研究」



第2回グローバル化研究会

に議席を持つに至った5政党を歴史の文脈から細かく分析した結果、チェコの政党システムは極めて安定しているが、その結果として連立政治は不安定なものになるという結果が出た。

質疑応答では、チェコに関する多くの質問が挙げられた。いくつかを挙げると、チェコ語の構造（スロヴァキア語との違い）、チェコでの新自由主義の特徴、ユーゴ内戦と社会主義時代との関係をどう捉えるのか、チェコの軍事品がアジアに流れたのかなどバラエティーに富んだ質問に対する討論が行われた。

（文責：小野澤信一 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科 博士後期課程）
（2009年6月5日、聖学院本部新館2階）